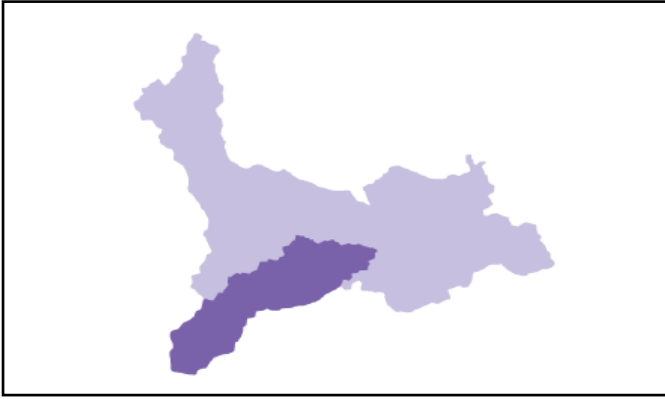


岩崎地区地域計画

(令和3年度～令和12年度)



現在の人口・世帯数(令和3年1月末現在)

人口：2,562人

世帯：842戸

2040年(20年後)推定人口 約1,500人(-1,100人)

(高齢化率 40%→50% 75歳以上 20%→31%へ)

<地域の将来像>

○2040年のめざすべき地域像

「豊かな自然と観光 歴史と文化をいつくしみ

心かよう 住み良いまち いわさき」

○私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

- ・国指定の岩崎鬼剣舞をはじめとする郷土芸能や伝統行事など地域に根付く文化を伝えていきます。
- ・夏油の山々、夏油川といった豊かな自然環境や田園風景を残していきます。
- ・岩崎城址をはじめとする歴史的資産や温泉およびスキー場などの観光資源を活かしていきます。
- ・青年会活動をはじめとした地域コミュニティ活動を大切にしていきます。

○私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

- ・人口減少社会の中で持続可能な地域づくりを進めるため、自治会や自治協組織の見直しを行い、負担の少ない形で次世代へ受け渡す必要があります。
- ・コロナ禍の経験を生かし、これまで当たり前続けてきたイベントや集会を見つめなおすことで、必要なものを整理確認し、さらに充実したものにしていきます。
- ・新しいチャレンジが尊重、応援されるような地域にすることで、若者たちがどんどん活躍していける地域をつくっていきます。

<私たちの目標>

○地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」(10年後)

●子ども・子育て世代

1.自分の考えや意見をしっかり持ち伝えることができ、元気にあいさつができる素直で明るい子ども

- ・なるべく多くの一流の人に接する機会を作り、一流の体験をさせます。
- ・地域と学校と子育て世代が一体となり、子供の成長を支えます。

2.自然や歴史、コミュニティなどの地域の特徴を理解し、誇りを持って伝えられる子ども

- ・地域の歴史や郷土芸能を学び、未来展望につながる学習を地域の人と一緒に行います。

●長寿世代

1.ちょっとした困りごとにも地域で対応できるような、生活支援の体制づくりと地域活動への参加をし易いものにします。

- ・世代間交流を深め、身近で気軽に集まれるコミュニティづくりを進めます。
- ・困っている人がわかる制度と、地域ボランティアや支援の体制づくりを進めます。

●岩崎らしい暮らし方

1.豊かな自然景観を維持し、郷土芸能が生活の中に溶け込み継承されること

- ・世代間を超えて、自然環境を守り観光資源を活かすための活動や仕組みづくりを進めます。
- ・年中行事のありかたを見直ししながら、地元の郷土芸能を学ぶ機会をつくります。

2.お互いのいろいろな暮らし方を学び合い話し合い、これからの時代に合った生活の中で地域の役割や居場所がある暮らし

- ・様々な世代間や地域間の地域コミュニティ活動の充実を図ります。

●推進体制・負担軽減や新しい役割分担

1.これまでのやり方に固執せず、新しいやり方を模索して地域活動の負担を減らす

- ・自治協や自治会の組織および各種役員、更には地域の見直しも視野に、より地域に合った形での活動を進められる体制を構築します。
- ・これまでの事業を整理し、時代に合わせて必要なものを適正な単位(回数や区域)や規模で実施していきます。
- ・さまざまな技術の活用や発想で、より多くの住民が負担の少ない形で地域活動に参加できるような仕組みをつくっていきます。

2.これからの地域の担い手を育てる

- ・いろいろな世代や層の参加を巻き込んで、継続的に地域の将来や学びの場を作ります。
- ・県内外や世界からの岩崎地区サポーターを作っていきます。

<計画推進の方向性の整理>

○子ども・子育て世代のために

●地域の特徴（どんな子どもを育てたいか）

- ・どんな状況でも前向きな思考を持ち、大事なことを見つけられる生きる力を持った子ども
- ・自分の考えや意見をしっかりと伝えることができ、リーダーシップを発揮できる子ども
- ・誰にでも分け隔てなく元気にあいさつができる素直で明るい子ども。
- ・自然や歴史、コミュニティなどの地域の特徴を理解し、誇りを持って伝えられる子ども

●現状の課題

- ・地域資源をさらに活用した、岩崎らしい教育環境を充実させる必要があります。
- ・教育を取り巻く環境の変化を敏感に捉え、対応できる地域の体制が必要です。
- ・地域のさまざまな場面で多様な人と交流することで、人間関係の基本を学ぶことが必要です。

●これから5年間で重点的に取り組むべき事項

- ・豊かな地域資源や人材を積極的に活用し、学校と地域、保護者が一体となって子どもの成長を支えていきます。
- ・家庭内での会話や地域でのコミュニケーションを通じて、子どもの自己肯定感や主体性を育てていく取り組みを行います。
- ・子どもの教育について、地域が常に学ぶ機会を持つことで社会変化に迅速に対応し、よりよい教育環境を整えていきます。

○働き盛り世代・地域らしい働き方・暮らし方

●地域の特徴

- ・自然の中で、趣味を楽しみながらゆったりと暮らすことができます。
- ・地域の中に自分の役割や居場所があります。
- ・民俗芸能が生活の中に当たり前で溶け込み継承されています。

●現状の課題

- ・豊かな自然景観をこれからも維持するために、保護や整備を進める必要があります。
- ・これまでの固定観念にとらわれず、それぞれの働き方や暮らし方を尊重することが必要です。

●これから5年間で重点的に取り組むべき事項

- ・夏油の山々、夏油川、田園風景といった豊かな自然環境を人口減少社会にあっても守り残していくための活動や仕組みづくりを行います。
- ・青年会活動をはじめとした地域コミュニティ活動を大切に、さらなる充実を図ります。
- ・地域に伝わる歴史や文化に理解を深める場をつくりながら、その伝承活動を進めていきます。
- ・多様性を尊重し、意見の押し付けをせず、それぞれのチャレンジを応援できるような地域の雰囲気をつくります。

○長寿世代・いろいろなちがいのある人のために

●地域の特徴

- ・少子高齢化の影響により、高齢者の生活環境の確保の必要性が年々高まっています。
- ・ご近所同士のつながりがあり、お互いに声を掛け合い情報交換するなどの交流があります。

●現状の課題

- ・ちょっとした困りごとに地域で対応できるような生活支援の体制づくりが必要です。
- ・ふれあいデイサービスなど、参加者が限定的になっている地域活動を参加しやすいものに変化させる必要があります。

●これから5年間で重点的に取り組むべき事項

- ・ご近所付き合いをさらに充実させ、顔の見える関係づくりをすることで、いつでも助け合える環境をつくります。
- ・世代交流や地域活動への参加の機会を増やすことで、生きがいや役割を感じ、そして刺激を受けられる地域コミュニティをつくります。
- ・送迎や買い物など、暮らしの困りごとを地域住民でお手伝いできる支え合いの仕組みづくりに取り組みます。
- ・公民館を開放したサロン活動など、気軽に集まれるいこいの場を地域に増やしていきます。

○推進体制・負担軽減と新しい役割分担

●地域の特徴

- ・人口減少の影響により、地域活動ができなくなってきたり、参加者に偏りが出てきています。
- ・組織や農業の担い手が不足しています。

●現状の課題

- ・地域活動の負担を減らすため、これまでのやり方に固執せず、新しいやり方を模索する必要があります。
- ・これからの担い手を育てるための地域での持続的な取り組みが必要です。

●これから5年間で重点的に取り組むべき事項

- ・自治協や自治会の組織および各種役員を見直し、より地域に合った形での活動を進められる体制を構築します。
- ・これまでの事業を整理し、時代に合わせて必要なものを適正な単位（回数や区域）で実施していきます。
- ・さまざまな技術を活用しながら、より多くの住民が負担の少ない形で地域活動に参加できるような仕組みをつくっていきます。
- ・若い世代を巻き込んだ地域の将来を話し合う場、学び合う場をつくっていきます。